死亡していた。しかし90時間を経た21日に7名が生存救出された[20]。

19日11時すぎ灘区王子競技場にスイス救助隊・救助犬が到着し22日までに9人の遺体を発見し収容した。

23日から救助班はローラー作戦を展開した[21]。

4)　救急活動

地震発生直後から多数の負傷者が消防署に駆け込んできたため、市内11消防署のうち8消防署で救急受付及び救護所を開設し、救急隊員は医師・看護婦の応援を得て延べ約1,200人のトリアージを行い、応急手当を実施した。

また災害現場へ出動し、救急活動も合せて行った。救護所で対応しきれない重症者については救急隊により医療機関へ搬送した。

地震当日の搬送人員は205人であったが次第に増加し、20日は466人に達した。その後も避難所からの救援要請も多く、通常の搬送人員の2〜3倍という状況が2月上旬まで続いた。

負傷の程度は軽症から心肺機能停止患者まで広範囲にわたった。障害の特徴としては、挫滅症候群（クラッシュ症候群）が多数を占めた。

医療機関への搬送は倒壊家屋等による交通の阻害や渋滞になやまされ、市外への転送も多く長い時間を要した。周辺都市へはヘリコプターが活用された。

以上神戸市の初動態勢についてみると幹部の登庁が早く対応に全力をあげたが、情報・監視機器などの最新の機器が最初機能不全に陥ったのが痛かった。さらに多発する火災に対して初期消火を実現出来ず大火に至ったのが最大の悲劇であった。長田区が最も大きな犠牲を出した。

〔4〕　西宮市の対応

(1)　西宮市の初動

1)　幹部の登庁と災害対策本部の設置

西宮市では教育長（災害対策副本部長）が最初（6時30分）に登庁した。教育長は庁舎の被害状況を確認した後、市庁舎内252会議室において災害対策本部設置の準備にかかった。7時に教育長から市長に状況を報告し、7時5分「西宮市災害対策本部」を設置し、防災指令第3号を発令した。そして市広報車等によって、市の全施設を開放する主旨の広報を開始した。また消防公安部技術隊も救出活動を始めた[22]。

2)　市災害対策本部会議開催

午前9時、第1回の市災害対策本部会議を開催した。ここで消防公安部が災害状況および災害防御活動の状況について述べ、今後の方針について報告した。

給水部では市南部地域全域が断水状態であることを確認して給水箇所を決定するとともに給水車の手配を開始した。

9時20分になると、調達部物質供給班が備蓄毛布の配達を始めた[23]。

3)　自衛隊の派遣要請

8時30分以降、近傍出動による自衛隊の救援を受けていた西宮市は、9時30分、対策本部において自衛隊の派遣要請と消防広域応援要請を決定し、兵庫県対策本部へNTT電話、衛星FAXで要請したが故障のためしばらく通じなかったが、58分に県消防交通課へNTT電話が通じたので「西宮市の被害は甚大、自衛隊の派遣を要請します」と自衛隊の派遣要請を完了した。

(2)　消防局の活動

1)　指揮本部の設置と情報収集

①　指揮本部の設置

消防局では地震直後に各消防署に対し「火災の鎮圧および人命救助を最優先し最善の行動をとるよう」指示するとともに、管制室内に指揮本部を設けた。

救助を求め殺到する通報及び市内各地の出火情報からみて被害が甚大であると判断し、各消防署の活動を本部の直接指揮下に置き、空白地域には管轄外の独立部隊を編成して指し向け、萬全を期するよう努めた。

20）神戸市「阪神・淡路大震災——神戸市の記録1995年——」平成8年1月　204頁
21）神戸市消防局「阪神・淡路大震災（神戸市域）における消防活動の記録」平成7年3月　34頁
22）西宮市「1995・1・17　阪神・淡路大震災——西宮の記録」平成8年（1996）11月　89頁
23）　同上　89頁